

関東アコーディオン演奏交流会

No.6

実行委員会ニュース

2014.10.29 発行

編集 広報部

ホームページ <http://www.kanto-acco.jp>

第26回関東アコーディオン演奏交流会のお礼

第26回関東アコーディオン演奏交流会に、多くの方がご参加いただきましてありがとうございました。

普段の練習の成果が充分発揮できたでしょうか。

今年は、30団体の素晴らしい演奏を披露していただき、開催できて良かったと思います。

審査委員体制では、今回、特別審査委員にピアニストであり、小松亮太さんのお母さんである小松真知子さんを迎えたこと。また、審査委員に新しく大田智美さんが加わり新鮮さがでた審査体制で、審査や評価をしていただきました。

講評カードにも、また、楽譜にも、演奏曲に自信が持てる内容や次回に生かせるコメントが細かく記載され、参考になったと各団体から寄せられていました。

新しい試みとして、聴いていただいたみなさんの印象がどうだったかを伺う「シール」投票を実施しました。次回の運営・活動の参考にさせていただきたいと思っています。

ゲスト演奏では、和田充弘さんの「BoneBassDrum Trio」による演奏で、私たちが元気をいただきました。

朝早くからの準備、進行、そして、後かたづけと長時間お力添えをいただいた方々のお陰で成功する事が出来たと思います。ありがとうございました。

皆様のご意見をいただきながら、次回の開催成功に努力したいと思っています。

今回は、独奏部門での演奏交流会になりますが、一層のご支援をお願い致します。

最後になりますが、みなさんのご健勝と益々のご活躍を祈念しております。

第26回 関東アコーディオン演奏交流会
実行委員長 塚本五郎

◎審査委員会より提出された結果並びに講評（別紙）を同封しました。合わせてご覧ください。

目次

- | | |
|------------------------|----------------------|
| ■入賞者、入選者、ゲスト演奏紹介…2P～5P | ■審査の様子、賞状授与の様子…6P～8P |
| ■講評、感想など…9P～13P | ■打ち上げでの感想など…14P～19P |
| ■KRUG 演奏旅行同行記…20P～22P | ■ホワイトボード…23P～24P |

*****《入賞・入選者の紹介》*****

《重奏の部》（出場14団体）注：第2位が2団体あるので第3位はありません

☆入賞第1位

☆入賞第2位（プログラム順）



出場番号 11. のりゆみ 「Infinito Grego」
作曲：Paulo J Ferreira



出場番号1.佐藤和里田 「Dizzy Fingers」
作曲：Zez Confrey
編曲：Werner Heetfeld

☆入賞第2位

☆入選（プログラム順）



出場番号5. KRUG
「弦楽四重奏曲第2番ニ長調第三楽章ノクターン」
作曲：アレクサンドル・ボロディン



出場番号4.セレーノ 「ハンガリー舞曲第6番」
作曲：Johannes Brahms
編曲：Werner Heetfeld

☆入選

☆入選



出場番号8.プチ・マルカート 「リベルタンゴ」
作曲：アストル・ピアソラ 編曲：青山義久



出場番号9. アコーディオンカルパッチョ東部
「お祭り」作曲：木下そんき 編曲：木下そんき

☆入選



出場番号14. 大石奈緒子 星野一美
「KLARINETT POLKA」
作曲：不詳 編曲：Lars Holm

☆審査員特別賞



出場番号10. ひなたぼっこ
「あまちゃん オープニングテーマ」
作曲：大友良英 編曲：虞 錫安

《小アンサンブルの部》（出場3団体）

☆入賞第1位



出場番号2. ウィンドバスカーズ埼玉アコーディオングループ
「アイリッシュ組曲抜粋」 作曲：Matyas Seiber

☆入賞第2位



出場番号1. アミーゴ 「夜明け」 作曲：Roberto Firpo 編曲：岩崎宏之



☆入賞第3位



出場番号 3. 月のカケラ
「Sbor A Mi」
作曲：Alvaro Carrillo



《合奏の部》（出場 1 3 団体）注：第2位が2団体あるので第3位はありません
☆入賞第1位



出場番号1. 埼玉アコーディオンサークル協議会
「レ・ミゼラブル・セクション」 作曲：Claude Michel Shonberg 編曲：松永勇次

☆入賞第2位（プログラム順）



出場番号6. 音楽センター中部土曜教室 スカラムーシュ3楽章「ブラジリア」
作曲：ダリウス・ミヨー 編曲：関 英昭

☆同率入賞第2位



出場番号8.川越アコーディオンサークルたんぼぼ 「三つの民謡による組曲」
作曲：松永勇次 編曲：松永勇次

☆入選



出場番号13.実行委員会有志 「合奏協奏曲作品6ー6第3楽章」
作曲：G・F・ヘンデル

《ゲスト演奏》 和田充弘 BoneBassDrum Trio



和田充弘（トロンボーン奏者）
山本裕之（コントラバス、エレクトリックベース奏者）
服部正嗣（ドラム奏者）

演奏曲目

Kianda'S Song : Aaron Goldberg
Golden Waves : Glenn Ferris
Istanblues : Glenn Ferris
New Day : Mitsuhiro Wada
Fifty-Fifty : Mitsuhiro Wada

《審査の様子》



重奏の部審査結果発表（柴崎和圭審査委員長）
賞状は、小松真知子特別審査委員より授与

《賞状授与の様子》
重奏の部入賞第1位「のりゆみ」↑



重奏の入賞第2位「佐藤和里田」



重奏の部同率第2位「KRUG」



重奏の部入選「セレーノ」



重奏の部入選「プチ・マルカート」



重奏の部入選「アコーディオンカルパッチョ東部」



重奏の部入選「大石奈緒子 星野一美」



重奏の部審査員特別賞「ひなたぼっこ」



小アンサンブルの部結果発表（山岡秀明審査委員長）



小アンサンブルの部入賞第1位
「ウィンドバスカース埼玉アコーディオングループ」



小アンサンブル入賞第2位「アミーゴ」



小アンサンブル入賞第3位「月のカケラ」



合奏の部結果発表（青山義久審査委員長）



合奏の部入賞第1位
「埼玉アコーディオンサークル協議会」



合奏の部入賞第2位「音楽センター土曜教室」



同率第2位「川越アコーディオンサークルたんぽぽ」



合奏の部入選「実行委員会有志」

＜講評、感想の内容＞

講評の流れ：まず、小松真知子特別審査委員から全体の講評を聞き、次に各部の審査発表を行い、（重奏の部審査委員長／柴崎和圭、小アンサンブルの部審査委員長／山岡秀明、合奏の部審査委員長／青山義久）表彰式、そして最後に講評を行いました。

全体講評：小松真知子特別審査委員

今日は出演なさった方々、そしてお聴きになった方々本当にお疲れさまでした。

みなさんの情熱がとっても伝わってきて、

多分、お仕事を持ちながら、学業を持ちながら、とっても好きで好きでこのアコーディオンを弾いていらっしゃるんじゃないかと思

います。

私も、実は小学校の4年生、5年生、6年生の時に「全日本リード合奏コンクール」というのがあったんですね。リードを使うハーモニカ、アコーディオン、そういった楽器ばかりで、昔はハーモニカ型のホルンという、あの渦を巻いている楽器ではなくて、ホルンに似た音が出る、そんな楽器がありまして、リード合奏というのが一時盛んだったころがありました。

その頃にピアノは習っていたんですけど、みんなで演奏するアコーディオンが面白くて面白くて取りつかれていた時期がある



んですね。そのとき先生はバッハとか、ビバルディとか、イタリア古典ものとか沢山やっていただいていたことを今日は思い出しました。

但し、今日は皆さんのレパートリーを聴いていると多彩に、もちろんクラシックもあり、モーツァルトもワーグナーも出てきました。日本の曲も、それからラテン、タンゴまで出てきました。ご自分の演奏しない曲も、また他のジャンルの曲もお聴きになれてたいへん楽しめたのではないのでしょうか。

私が何か話すとすれば、自分のことも踏まえてですけども、合奏の時というのは、まず、だいたいパート譜を渡されて、それを一生懸命みなさん練習なさると思うんです。でも、少し込み入ってくると、他の人が何をやっているか知らないと、なにかにつられて弾いちゃうことがあると思うんです。それはプロでもアマチュアでも同じで、そこをプロの人はどのようにやっているかという、少し先生によって違いはありますが全体像を把握するために、やはりスコアというものを見ておきます。他のパートは何をやっているのか、自分が休符のところは何をやっているのかをうんと把握するわけなんです。そ

うして、それを実践するのが本当の練習の場である訳なんですね。

それと、もう一つ、せっかくの練習の場にそれぞれ皆さん忙しい中で集まっているわけですから、テープレコーダー、最近是小さいのがたくさんありますから持っていまして、全体を把握しておくといいと思います。

あと、中には、今日の作品の中でもアレンジの和音がとても難しくて、どこでどう合わせるのか、この音は、自分はいったい和音の構成の中の何の音を弾いているのか、メロディを弾いていない人は、ちょっと分かりにくい音を弾いて、疑問のまま練習が終わってしまうことがありますか。その時、そういうのを恥ずかしがらずにテープを取って、わからないところを克服すればグーッと伸びることが出来るんですね。ですから、大いにそういう練習をしてみたらどうかということです。

それから、それにちょっと関連しますが、音楽の三要素はリズム、メロディ、ハーモニーと良く学校でも言われますけれども、今日聴いたところ、メロディは皆さん大変美しく歌われている。で、アコーディオンというのは、何よりもこの蛇腹の返しでメロディのつながりかた、それがとっても欲しいところなんです。残念ながら伴奏のことになるとその呼吸がちょっといい加減になる。

メロディの方がやはり反応しやすい。何を言っているかわかっていて、それで好きだからこそのように弾ける。ところがリズムというのはたいへんつかむのが難しい。そして単調でもあります。是非皆さんまずメトロノームで練習してください。そして、自分でメロディを弾いてみてそれを録音してかけながら自分で伴奏してみるといいと思います。何か一人で練習する方法ってそんなのがいんじゃないかなと思います。

それと、ハーモニー、先ほどもちょっと触れましたけども、和音の勉強をすると限りなく難しいことがたくさん出てくるんですが、特に、ジャズとかポピュラー音楽になるとい

ろいろ出てくるんですが、クラシックの場合は、それが全部丁寧に書いてあります。書いてあるけれども内声（内側の音）を弾いている人は本当は何をやっているか良くわからないと思うんです。

ですから、録音とか楽譜とかを大いに活用して、自分が弾いているパートは上のメロディがここと重なる。ここの音を待つ、とか、そういう自分の役割を完璧にこなすように、あんまり人に頼らない、自分のところは自分で保持して、そこに誇りを持ってやっていただくと格段に良くなると思います。分からないまま終わらせないということがいいんじゃないかなと思います。

あとは、音符は音符なんですよね。特に思っているのは全部音符で書き表せないことが大変多いです。“ブンチャチャチャッチャ、チャッチャ”でも“ズーンチャチャ”でなく、“ズン、チャカチャッチャ、チャッチャ”と最初は重くとなればそういうふうになるんで

すね。

今日、夜明けというタンゴを弾いて下さった方もいたんですが、私がいつもタンゴをやっていて、ああいう曲が実は一番難しくて、“ブンチャチャチャッ、チャッ、チャ、チャ”ってなっているけど、実際に弾くのは“シャッ、シャッ”っていう、そういうことはアコーディオンとかバンドネオンとかは出来るんですねジャバラの楽器ですから、ヴァイオリンも当て方で出来るんです。ま、呼吸感なんなんですね。ですから、各ジャンルの呼吸感っていうのを、アンサンブルの出来たところで最初から狙って欲しいなあと思いました。

より音楽を深く楽しんで頂くために、ちょっと辛口の苦勞するところをご案内いたしました。是非皆さんこれから先もずっと楽しんでください。よろしくお願いします。

重奏の部講評／柴崎和圭審（重奏の部審査委員長）



まず、一つは、これは全体を見ていて、レベルが上がったとか、こんな曲が出てきたんだとか、先程小松先生が言われたように、いろんな国の音楽や日本の音楽が組み込まれたものとか一杯あって、聴いている方も、審査している方も大変ではありますが、すごく楽しい思いをして聴かせて頂きました。

そこでちょっと気が付いたのが、やっぱりアンサンブルとか重奏はみんなと一緒に弾く、1人じゃないっていうことですね。その時にすごく大事なことは、息を合わせることなんじゃないかなと思うんですよね。良く皆さん始めるときに、ワン、ツウ、スリー、とか、声もいいんですけども、やっぱり、

ワン、ツウ、スリー（息を殺したように）そうするとすごくわかりやすいじゃないですか。合図をだす人だけが息を吸うんじゃなくて全体と一緒に“イチ、ニイ、ふー”って、そうすると音がすごくきれいに出るリズムもすごくよくなるし、音楽がスラーっと流れるんです。

そういう息づかい、それは頭だけじゃなくて、各部門の中でも凄く大事なかなと思います。お互いを知り合うためにも大事だし、音楽のためにも大事だし、自分のためにも大事ですね。それがちょっと気になったところです。

それから、アンサンブル、重奏に出てくることで多いのは休符です。

独奏の場合は自分で黙っちゃうことはあり得ないんです。必ず何か弾いていますよね。ただ、みんなでやるときはそういうことが出てくるんです。休符っていうのは「はい、休め」っていう意味ではないですよね。勿論当たり前のことを言っているんですが、でも、

やっぱり、イチ、ニイ、サン、私は待っていますよって数えただけの方が多いんですね。その休符こそ音楽なんです。

だから、各パートがやっているときに自分もその、さっきも小松先生が言われましたけれども、自分も一緒に弾いて、自分も一緒に音楽をつくって下さい。この休符こそがものすごく大事になってきます。

それだけでなく休符が、実はそれがリズムであるっていうのもあるんですね。“うっ、と”というこれもリズムじゃないですか。ですからアンサンブルにたくさん出てくるその休符も大事にしていだけるといいかなと思います。

それから、メロディだけじゃなくて、自分で1人で弾くときはアコーディオンの特徴

で左手で伴奏もしますが、アンサンブルの場合、右手だけっていうことが多くなります。そうすると、自分の持ったメロディーだけをやっぱり追ってしまうんですが、先ほど言われたようにその中にはいろんなハーモニーがあって、その中で自分はどういう役目をしているのか、やっぱりそういうことも、重複しちゃいますけれども私も同様に切に感じます。

それは、やっぱり全体を見通してこそで、自分は走っている車のタイヤなのか、ハンドルなのかドアなのか屋根なのかわかんないであっちこっち走ったら車が混乱しちゃいます。今、自分がなんの役目をして、どういう走りをして、早い、遅いとか、強いとか、そういう役割を感じ取るのもすごくいいかなと思います。

小アンサンブルの部講評／山岡秀明(小アンサンブルの部審査委員長)



最初に演奏したアミーゴの皆さん、タンゴバンドに私は19歳の時からずーっと入ってやっていますけれども、その頃バンドネオンと一緒に演奏したことがあります、演奏法によってはほとんどバンドネオンと同じ、それ以上のことも出来ると思います。これはアクセントの付け方、メロディの付け方、アコーディオンってすごい楽器ですから本格的にやればもっともっとすごくなるという楽器です。

そして、今日の編成は、タンゴバンドではピアノ、ベース、そしてバンドネオンとバイオリンという編成ですが、今日はそのバンドネオンがアコーディオンになったというだけで大変いい演奏をしていると思います。まだまだ研究していけばもっと私の楽団よりはもっといい演奏が出来るのではないかと期待しております。

2番目に演奏したウィンドバスカーズの

皆さんのアイリッシュ組曲。やはりイギリスも今、スコットランドとか、もともと三国だったんですね。その中の一つがアイルランドというところで、いろいろと小競り合いしながらも今は英国として皆さんに知られています。

ただ音楽は、その国々、三国は両方ともいろいろと張り合いながら、特にスコットランド、アイルランドは仲良くしながらも音楽にはいろんな特色があるんですね。で、今日演奏された松永先生の編曲、とても良くできていて、演奏する側もとてもやりがいのある演奏だったと思います。今日は優勝おめでとうございます。とてもいい演奏でした。

それから月のかけらの皆さん、2名ですが、これは今度はどちらかというと、ジャズやポピュラー系に入る曲です。ギターとアコーディオンの伴奏で、これは、メロディーを書いてあるだけで後はアドリブとしておりますが、もともとジャズのアドリブというのはその場でわっと出して一挙にその覚えているコードをずら一っと弾いていくとか、

4 つだけのコードを決めてそればかり回していくとか、取り合いをするとか、いろんなやり方があるんですね。今日は完全にアコーディオンがアドリブを先にやって、ギターがそれにバックキングを加えていました。

それに対して今度はギターのアドリブに対してアコーディオンがバックキングを加えておりましたけれども、アコーディオンという楽器は右も左もありまして、左だけでバックキングを加えるというよりも、どちらかというと左はベースの音だけ使ってランニングしたり、ランニングっていうのは、タン、タン、タン、タン、タン、タン、タンとかいろんなことがアコーディオンっていう楽器は出来るんですね。内側 2 列のベースで

ね。それに対して右側で和音、いわゆるハーモニーですね、ジャズの和音ですね、いろいろと増えてきた和音を上手く使ってその場で合わせて、所々入れてあげると非常に効果が出てきます。

これからアコーディオンという楽器もバンドの中の一員っていうだけじゃなくて、たった二人でやってもこんなに素晴らしいものが出来るわけですからバックキングの仕方なども研究していけばもっとお二人の演奏が素晴らしいものになるんじゃないかと思います。どうぞ、これからも頑張ってください。

合奏の部講評／青山義久審査委員(合奏の部審査委員長)



は、相当の水準で演奏されたと思います。

合奏というのは、いま、例えばアコーディオンのサークルの現状から見ても、高齢化が

13 団体で、「入選が 4 団体というのはちょっと少なかったんじゃないかな」との意見が審査委員会の中でも出ていました。それでも入選された方

進んでいて、なかなか人が集まらないとか、いろんな状況がありますね。

で、その合奏にふさわしいだけの規模のあるサークルが減っているとかそういうことも関係して合奏にふさわしい水準、入選が少ないんじゃないかなという意見などもありました。

是非、みんなでこの状況を改善して、各サークルがもっともっとたくさんの人によって楽しく発展していくように頑張っていきたいと思います。

大田智美審査委員(審査委員として初めて参加したので一言)



ガタガタ震えていた一人です。

ただ、20 年前って言うてもこういう場に来ると本当に昨日のここのように思いだしまして、ま、その頃は毎年、ソロがあった

ので、本当に毎年ここを目標に 1 年間練習してきたことが今の自分につながっているんじゃないかなあと思っております。

やっぱり、今日にピークを合わせる。スポーツなんかもそうですけど、それまでずーと練習してきたものをいかに一日 1 回 5 分の中で出せるかっていうのが、やっぱり緊張をしたりもしますしね、体調がなかなか合わなかったりとかしますし難しいんですけども、それを含めてどうしたらいいのかなあというのを練習の中で先生といろいろと相談しながら、緊張を克服する

というよりは、その緊張状態になれて演奏していく、練習の時から自分で緊張状態をつかって練習するというのも、一つの本番を上手く乗り越える方法なのかと。

音楽的なところでも、先程、柴崎先生も言っていましたし、他にも生方が

たくさん言っていました。あと、今回審査員の先生方がずらっといらっしゃいますが、必死で講評カードと楽譜の中に書き込みをしておりますので、そこを見て頂ければと思います。

良かった演奏に、感動した演奏に、シールを貼ってみましょう！コーナー

パネルにシールを貼る形で、「客席からの評価」を試みてみました。一人に5枚渡す予定でしたが、用意する枚数を間違えて一人に3枚となりました。

結果は写真の通りですが、見にくいので数字にしてみました。貼られたシールの合計が232枚なので、会場の約3分の1の方が参加したことになります。(1人3枚貼った場合)

感動した演奏にシールを貼ってみよう！ [出演者] 団 体 名 曲 名	出演者 団 体 名 曲 名
1 佐藤和里田 DIZZY Fingers	8 アカマール・リベラ・ダンゴ
2 ザ・ピリカーズ 如床 雅博	9 アカマール・リベラ・ダンゴ お祭り
3 節子 & 清子 さくら	10 かなたぼっこ あまちゃん・アコーディオン・テーマ
4 セレーノ ハンガリー・舞臺第6番	11 のりゆみ Infinito Gogo
5 KRUG 音楽の森・山崎第2・音楽部・音楽部・音楽部	12 55アコ・サークル 星野一美
6 北部教室 JBA60 サウンド・オブ・ジャズ	13 5月の風 Kallia Ka
7 横浜アコーディオン愛好会 雪が降る	14 大石奈緒子 星野一美 KAJI NETT POLKA

感動した演奏にシールを貼ってみよう！ [出演者] 団 体 名 曲 名	出演者 団 体 名 曲 名
1 アミーゴ 森 研一	16 音楽センター・三多摩教室 スのうた・3重奏・アコーディオン
2 ウィンドバスカーズ埼玉アコG	17 横浜アコーディオン愛好会 マイシール
3 月のカケラ Shor A Mi	18 川越アコーディオンサークル 三つの民族による組曲
4 かなたぼっこ 1 埼玉アコーディオン・音楽部	19 東京アコーディオン研究会 Yesterday Once More
5 かなたぼっこ 2 埼玉アコーディオン・音楽部	20 音楽センター・北部教室 演習1級の教室(お祭り)
6 かなたぼっこ 3 埼玉アコーディオン・音楽部	21 音楽センター・南部教室 Entertainer (お祭り)
7 かなたぼっこ 4 埼玉アコーディオン・音楽部	22 池田アコーディオン教室 交響曲第4番(お祭り)
8 かなたぼっこ 5 埼玉アコーディオン・音楽部	23 実行委員会 有志 全奏曲第4番(お祭り)

重奏の部 (プログラム順)

1. 佐藤和里田	9 枚
2. ザ・ピリカーズ	4 枚
3. 節子 & 清子	3 枚
4. セレーノ	6 枚
5. KRUG	10 枚
6. 北部教室 JBA60	2 枚
7. 横浜アコーディオン愛好会	9 枚
8. プチ・マルカート	20 枚
9. アコ・カルパッチョ 東部	1 枚
10. ひなたぼっこ	15 枚
11. のりゆみ	24 枚
12. 55アコ・サークル	5 枚
13. 5月の風	3 枚
14. 大石奈緒子 星野一美	9 枚

小アンサンブルの部 (プログラム順)

1. アミーゴ	5 枚
2. ウィンドバスカーズ埼玉アコG	11 枚
3. 月のカケラ	3 枚

合奏の部 (プログラム順)

1. 埼玉アコ・サークル協議会	12 枚
2. ともしびアコーディオン合奏講座	3 枚
3. 音楽センター三多摩教室	7 枚
4. 音楽センター北部教室	1 枚
5. 音楽センター中部金曜教室	5 枚
6. 音楽センター中部土曜教室	11 枚
7. 横浜アコーディオン愛好会	3 枚
8. 川越アコ・サークルたんぽぽ	15 枚
9. 東京アコーディオン研究会	5 枚
10. 音楽センター東部教室	6 枚
11. 音楽センター南部教室	3 枚
12. 池田アコーディオン教室	5 枚
13. 実行委員会 有志	17 枚